
 私がなぜ現在の科目を選んだか

「外科」

信州大学医学部外科学講座(2)

江口 隆

私がなぜ外科を選んだか。それはきっと、「憧れられたい」「頼りにされたい」という思いからです。

10年前、第2外科（現在の外科2）の実習で出会った3人の先生方のことを今でも鮮明に覚えています。1人目は消化器グループの梶川昌二先生。病棟で手術着のまま仕事をする梶川先生からは、ものすごいオーラが出ていました。当時の私は純粋に「カッコいいな！あんな風になりたい！」と憧れました。2人目は呼吸器グループの近藤竜一先生。症例のことを、やさしくとても誠実に教えてくれ、最終日には外勤先まで連れて行ってくださいました。帰りにおごってもらった焼き肉とビールの味は一生忘れません。外科にこんなにも紳士的で素敵な先生がいることに、とても感動しました。3人目は木曽病院の久米田茂喜先生。実習生の私を連れて、病院内を歩き回り、どの部署に行ってもあつという間に仕事を終わらせてしまい、その活躍ぶりは、まさに縦横無尽であり、いつか私もこんなに頼りにされ、情熱をもち、そして楽しそうに仕事が

できたらいいなと、強く思いました。

私は学生時代、いやなこと、つらいことはすぐ投げ出してしまおう根性無しでした。サークルは2年間でやめてしまい、本格的にやろうと思ったスノーボードは結局遊び半分で終わってしまい、USMLE合格を目指して始めた勉強は3カ月で挫折しました。そんな自分がいやで仕方なかったのですが、そんな時に、第2外科の実習を受けました。入局を決めることに、不思議と迷いはありませんでした。第2外科に入れば、「頑張れない」自分から脱皮できるんじゃないか、「憧れられる」「頼りにされる」人間になれるんじゃないか、という期待があったためでしょうか。

入局した当時、医局に対して、先輩に対して、絶対に絶大の信頼を抱き、「外科医であること」「第2外科の医局員であること」に、非常に高いプライドを持っていました。「第2外科の江口です」と言うことに、何か優越感を感じていました。今から言えば少し恥ずかしくなるぐらいです。しかし、そのプライドがあったからこそ、いろいろなことに努力できたのだと思います。

あれから10年が経ち、私にも後輩ができましたが、私を信頼し、そのことに対してプライドを持ってくれる人がいるかということ…… 初心にかえって努力しなければならぬと思う、今日この頃です。

(信大平13年卒)

 私がなぜ現在の科目を選んだか

「小児科」

信州大学医学部小児医学講座

岩下 明日香

子供は、具合が悪くなる時すごい速さで進行しますが、回復もすごいスピードです。私が小児科に興味を持ったきっかけは、その一点にありました。

周囲に小さい子がいる環境で育たなかったためか、私は子供がすごく苦手でした。大学生の時は、勉強が難しかったこともあり小児・小児科に対する苦手意識が強く、自分が将来選択するなんて夢にも思っていませんでした。そんな中、初期研修を一般病院で行い、同じ喘息や肺炎でも、大人と比べて小児は治るのが早いのだと思うことがありました。子供はわかりやすく、具合が悪ければぐったりしていて機嫌が悪く、元気になれば笑って飛び跳ねご飯も良く食べる。そのため回復が速いと感じたのかかもしれませんが、とにかくそれがきっかけで小児科に興味を持ち始めました。

はじめは子供たちに何て話しかけたらいいのか、どう抱っこしたらいいのかなど何もわからない状態でしたが、お母さん達に教えてもらいながら、他の先生や看護師さん達を見よう見まねしながら子供たちと接していきました。最初は私の顔を見るだけで泣いていた子が、少し慣れると笑顔を見せてくれたり、一生懸命お話してくれたり。そんなことを何回か繰り返していくうちに、いつの間にか子供に対する苦手意識は消え、楽しいと思うようになりました。

信州大学の小児医学講座に入局し、大学病院での診療に携わらせていただいています。中には難治性の病気の子もいますが、彼らは治療の中でも日々成長し、たくましく生きています。本当に頭が下がる思いです。少しでも彼らの助けになれるように、私も頑張らなくてはと思います。

子供たちの笑顔を、その成長の喜びを、家族とともに分かち合うことができる素晴らしい職業につけたのだと思います。理想の医師像にはまだ程遠いですが、一日一日を大切に過ごし、成長していけたらと思います。

(秋田大平19年卒)